



2013 年度 後期

東北大学会計大学院アンケート実施報告書

Tohoku University Accounting School

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

1. はじめに

東北大学会計大学院は2005年4月に国立大学法人では初めての会計専門職大学院として開設されたが、今年度で10年目を迎え、2014年3月末時点で300名近くの卒業生を社会に送り出すことができた。本大学院の目的は、グローバルな視野と高度な分析能力を持つ職業会計人を養成し、将来にわたりこのような人材を社会に提供し続けていくことである。本大学院での教育の理念は、会計分野の知識だけでなく、経済や経営、IT、法律、倫理といったこれからの社会で会計の専門家として活躍するために求められる知識と素養を修得することである。この理念を達成するため、私たちは、社会が職業会計人に求める能力を把握し、これを学生への教育へと反映し、同時に、現在行っている教育が学生の能力やニーズに見合っているかを常に確認しながら、より効果的な教育方法を模索していく必要があると考えている。本会計大学院の理念に鑑み、私たちは、会計大学院における最善の教育方法・システムを求めていくためのひとつの手段として、毎セメスター終了後にアンケートを実施している。過去のアンケートは、「アンケート実施報告書」として会計大学院のWEBサイトで公開している¹。

私たちがこの報告書を公表する意図は、東北大学会計大学院への入学希望者や、学生の主要な就職先となる監査法人・会計事務所・企業・官庁の方々に、本会計大学院でどのような教育が行われているかを理解して頂きたいという点にある。この調査報告書の公開によって、本大学院の卒業生が高い意欲をもって学習に取り組んでいることを示すことができると考えている。

また、私たちは、このアンケート調査報告書を在学生が教員に対して発信したメッセージと捉えている。今後とも、私たちはアンケートを通じて改善すべき点を見だし、質の高い教育サービスを提供できるよう努力していきたいと考えている。アンケート結果についてご意見等をいただければ幸いである。

本年度においては、本大学院は、第三者評価機関「会計大学院評価機構（AOPAS）」の評価を受け、AOPASが示した基準・解釈指針の全てを満たし、「認定会計大学院」の称号を授与された。一方で、会計大学院をめぐる状況は厳しさを増しており、制度変更、就職状況など様々な動きに敏感にならざるを得ない。しかしながら、優れた教育をしていくことが会計大学院の唯一の生き残る術であるとの信念のもと、さらなる改善に取り組んでいきたい。

2014年4月10日

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

¹ <http://www.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/keiji2014a.html>

2. 実施方法

本報告書の対象となるアンケートは、2014年1月7日から1月27日の間に受講者に配布・実施された。アンケートの種類は以下に示す通りである。

- ①「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」(巻末資料 1)
- ②「会計大学院の授業に関するアンケート」(巻末資料 2)

両アンケートともに無記名であり、「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」は1学生につき1回限りの回答とした。「会計大学院の授業に関するアンケート」は履修者が5名以上である全ての講義について実施し、学生は受講している講義ごとに回答を行っている。なお、講義担当教員の希望があったものについては、履修者が5名未満の場合でも実施している。

本報告書では、まず「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」の集計結果から、本会計大学院の教育システム全般に関する分析結果を示して、問題点を明らかにし、今後の対応について述べる。続いて、「会計大学院の授業に関するアンケート」の結果を集計し、今semesterに開講された科目について、その教育内容・教育方法全般に関する分析を行い、その問題点を明らかにし、今後の対応を検討する。なお、本報告書では、アンケートにより得られたデータを可能な限り定量的に分析したいと考えている。

「会計大学院の授業に関するアンケート」の科目毎のアンケートの集計結果(アンケート質問項目17の自由質問を含む)と自由記入欄の記載内容は担当教員に直接報告されている。ワークショップ委員会では、各教員がこれを通じて次年度以降の講義内容の充実に資することを期待している。

3. 「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」の集計結果について

3.1. アンケートの実施状況

本アンケート用紙は2013年度後期に開講された科目のうち、多数の会計大学院学生が履修する「監査制度」（会計大学院学生の履修者24名）において配布・回収され、この科目を履修していない学生については会計大学院事務分室で配布・回収を行った。回収数は24である（ただし、項目によって無回答の場合もある）。これは、会計大学院の在籍学生数の3割程度であるため、会計大学院全体の動向を反映していない可能性もあるが、今後のカリキュラム編成の参考材料にはなると考える。

3.2. 設問ごとの集計結果と推移

以下では、それぞれの設問についての集計結果と、直近7年度分の推移を示す。以下に掲載したうち、2006年度には前期にもカリキュラムについてのアンケートを行っているが、紙面の都合上ここでは後期実施分のみ示すこととする。なお、全項目の集計結果については巻末資料を参照されたい。

設問1は受講者属性を問うものであり、本アンケート回答者は全て会計大学院学生であった。したがって、本アンケート結果は当会計大学院学生のカリキュラムに対する声を反映しているものと考えられる。

設問2：基礎、展開、実践・応用の科目配置は適切だと思いますか。

選択項目	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
適切である	42.00%	32.79%	20.00%	26.19%	50.00%	39.47%	35.71%	61.90%
ほぼ適切である	36.00%	34.43%	50.00%	45.24%	40.00%	31.58%	35.71%	28.57%
どちらともいえない	16.00%	14.75%	16.67%	19.05%	5.00%	26.32%	17.86%	0.00%
やや不適切である	2.00%	11.48%	13.33%	7.14%	5.00%	2.63%	10.71%	9.52%
不適切である	4.00%	6.56%	0.00%	2.38%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%
総数	50	61	30	42	20	38	28	21

設問3：セメスター間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか。

選択項目	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
適切である	28.00%	16.67%	10.00%	21.43%	31.58%	18.42%	31.03%	55.00%
ほぼ適切である	20.00%	25.00%	30.00%	28.57%	26.32%	23.68%	31.03%	30.00%
どちらともいえない	22.00%	26.67%	26.67%	28.57%	15.79%	18.42%	20.69%	10.00%
やや不適切である	24.00%	18.33%	26.67%	19.05%	15.79%	28.95%	13.79%	5.00%
不適切である	6.00%	13.33%	6.67%	2.38%	10.53%	10.53%	3.45%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%
総数	50	60	30	42	19	38	29	20

設問4：オフィスアワーを利用して教員に履修相談・質問等を行った回数は。

選択項目	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
5回以上	6.12%	9.84%	6.67%	0.00%	25.00%	10.53%	6.90%	13.04%
4回または3回	14.29%	13.11%	16.67%	4.76%	10.00%	2.63%	17.24%	13.04%
2回	16.33%	26.23%	13.33%	16.67%	0.00%	10.53%	3.45%	4.35%
1回	14.29%	16.39%	10.00%	11.90%	10.00%	10.53%	27.59%	13.04%
利用しなかった	48.98%	34.43%	53.33%	66.67%	55.00%	65.79%	44.83%	56.52%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%
総数	49	61	30	42	20	38	29	23

設問5：セメスター開始時の個人面談は、学習計画を立てる上で役に立ちましたか。

選択項目	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
役に立った	18.00%	38.33%	30.00%	23.81%	40.00%	23.68%	13.79%	60.00%
まあまあ役に立った	32.00%	23.33%	26.67%	47.62%	5.00%	36.84%	37.93%	25.00%
どちらともいえない	18.00%	15.00%	23.33%	26.19%	30.00%	23.68%	24.14%	10.00%
あまり役に立たなかった	14.00%	10.00%	16.67%	2.38%	5.00%	7.89%	17.24%	0.00%
役に立たなかった	18.00%	13.33%	3.00%	0.00%	20.00%	7.89%	6.90%	5.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	60.00%
総数	50	60	30	42	20	38	29	20

設問 6 : GPA によって学生の能力は適切に評価できると思いますか.

選択項目	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
適切である	14.00%	18.03%	10.00%	7.14%	25.00%	10.53%	24.14%	18.18%
ほぼ適切である	16.00%	24.59%	33.33%	30.95%	15.00%	23.68%	17.24%	45.45%
どちらともいえない	38.00%	29.51%	36.67%	38.10%	55.00%	34.21%	41.38%	27.27%
やや不適切である	16.00%	16.39%	13.33%	14.29%	5.00%	18.42%	10.34%	9.09%
不適切である	16.00%	11.48%	6.67%	9.52%	0.00%	13.16%	6.90%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%
総数	50	61	30	42	20	38	29	22

設問 7 : 受験のための自主学習には 1 日平均何時間くらい掛けていますか.

選択項目	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
5 時間以上	32.65%	35.00%	43.33%	34.15%	40.00%	43.24%	35.71%	25.00%
4-5 時間	16.33%	20.00%	20.00%	21.95%	5.00%	10.81%	17.86%	15.00%
3-4 時間	8.16%	16.67%	6.67%	9.76%	25.00%	8.11%	10.71%	15.00%
1-3 時間	28.57%	15.00%	16.67%	12.20%	5.00%	24.32%	17.86%	15.00%
1 時間未満	14.29%	13.33%	13.33%	21.95%	25.00%	13.51%	17.86%	30.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%
総数	49	60	30	41	20	37	28	20

注) 「1 時間未満」の項目は 2010 年度アンケートまでは「していない」であった.

設問 8 : e-mail, HP を用いた連絡システムは役に立ちましたか.

選択項目	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
役に立った	62.50%	56.67%	58.62%	57.14%	60.00%	71.05%	55.17%	55.00%
まあまあ役に立った	33.33%	23.33%	41.38%	23.81%	35.00%	23.68%	31.03%	35.00%
どちらともいえない	2.08%	15.00%	0.00%	16.67%	5.00%	5.26%	13.79%	5.00%
あまり役に立たなかった	2.08%	1.67%	0.00%	2.38%	0.00%	0.00%	0.00%	5.00%
役に立たなかった	0.00%	3.33%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	55.00%
総数	48	60	29	42	20	38	29	20

設問 9 : 在学中の受験を考えていますか.

選択項目	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
考えている	72.92%	67.24%	82.76%	71.43%	63.16%	59.46%	48.28%	55.00%
まだ決めていない	4.17%	6.90%	6.90%	9.52%	10.53%	10.81%	13.79%	20.00%
考えていない	22.92%	25.86%	10.34%	19.05%	26.32%	29.73%	37.93%	25.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%
総数	48	58	29	42	19	37	29	20

設問 10 : OB 会について (この設問は 2007 年度に追加したものである.)

選択項目	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
賛成	51.72%	66.67%	57.14%	80.00%	78.38%	67.86%	65.00%
反対	6.90%	3.70%	2.38%	5.00%	2.70%	10.71%	10.00%
分からない	41.38%	29.63%	40.48%	15.00%	18.92%	21.43%	25.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%
総数	58	27	42	20	37	28	20

3.3. 自己評価と今後の課題

ここでは、設問2から10の集計結果を基に、問題点を抽出するとともに、対応を検討する。

設問2（基礎、展開、実践・応用の科目配置）については、これまでと同様に、アンケート時に「基礎」・「展開」・「実践・応用」の科目分類表を配布し、これを見ながらアンケートに回答をもらった。「適切である」と「ほぼ適切である」の合計は、90%近くになっており、現行の科目配置のバランスが適切であると考えられる。

設問3（セメスター間の開設授業科目のバランス）については、「適切である」と「ほぼ適切である」の合計が85.0%であり、これまででもっとも高い水準となっている。これについては教員のご協力の下、前期、後期の科目配置については、学生目線での配置となるように配慮していることが反映しているとみられる。

設問4（オフィスアワー）については、基本的にこれまでと同じ傾向が示された。「1回」あるいは「利用しなかった」と回答した学生が7割程度いるのはこれまでと同じ傾向である。個人面談でも学生に質問しているが、教員に質問のある学生はほとんどの場合授業後に教員に相談に行き、別途オフィスアワーを利用することは少ないようである。他方で、3回以上利用している学生が25%を超えており、オフィスアワーの重要性が高いともいえる。

設問5（個人面談）については、「役に立った」と「まあまあ役に立った」の合計が85%を超えており、効果が高いことが示唆された。また、この水準はこれまで以上に高いが、学生の進路が多様化する中で、個人面談のようなone-to-oneの指導体制が重要度を増していると反映していると考えられる。

設問6（GPAによる評価）では、「適切」と「ほぼ適切」の合計が、60%を超えており、一定程度の納得が得られているようである。学生の（個別の科目ごとではなく）総合的な能力（成果）を測定することは困難であるが、GPAは学生目線から見ても問題がないと判断されている傾向にある。また、会計大学院では、学生を選抜するプロセスでGPAを利用しているが、この指標に対する学生の信頼性が相当程度高いことは、この方針の妥当性を考える上で重要である。

設問7（受験勉強にかける時間）では、5時間以上掛ける者の割合が減少傾向にある。これは、在学中の受験を考えるものが減少傾向にあること。また、在学中に合格した者も相当数いることが反映していると考えられる。

設問8（email, WEBを用いた連絡システム）については、「役に立った」と「まあまあ役に立った」の合計が9割であり、現行の連絡システムで問題がないものと考えられる。

設問9（在学中の受験）では、「考えている」者の割合は減少傾向が続いている（昨年度よりは多いが、本年度においては、「監査制度」の講義内でアンケートを実施したことから、回答者と受験パターンの傾向に若干のバイアスがあった可能性がある）。これまでの様々な調査でも示されているが、本会計大学院の学生の進路は多様化してきていると考えられる。我々も学生のニーズを汲み取り、より充実したカリキュラムを設計していきたい。

3.4. 自由記述欄について

最後に、自由記述欄の記載について検討する。

ここでは、開講してほしい科目に関連する記載のみがあり、英文会計、BATIC（国際会計検定）に関連する科目設定に対する要望が若干あった。日本でもIFRSの採用企業が増加する中で、こうした科目への関心が高まっているとも考えられる。

現状において、資格に直接的に関連する科目を開講する予定はないが（ただし、国際会計基準、実務に関する講義は、3科目〔26年度よりさらに1科目開講予定〕、全国的に見ても充実した開講状況にあると考える）、各科目内での英文財務諸表を取り扱った講義の導入などについて検討の余地がある。

4. 「会計大学院の授業に関するアンケート」に関する分析

4.1. アンケートの実施状況

2013年度後期における開講講義数は51科目であり、そのうち履修者が5名以上の講義（27科目）についてアンケートが実施された。アンケート実施科目と履修者・アンケート回収数をまとめると次のようになる。

授業科目名	履修者数	回収数
コストマネジメント	14	13
財務諸表	24	13
事例研究（財務諸表）	5	3
プロジェクト調査（財務諸表）b	7	3
原価計算2	25	19
簿記2	32	30
情報システム設計	24	22
監査計画の編成法1	11	9
内部統制の実務	12	9
財務諸表分析	20	16
上級財務諸表分析	11	9
プロジェクト調査（財務諸表分析）b	7	7
事例研究（法人税法）	10	9
財務行政	5	2
企業開示制度のしくみと実際	7	7
上級企業法	9	8
ビジネス・プレゼンテーション1	7	6
監査制度	24	24
上級監査制度	22	21
事例研究（経営管理）	6	5
事例研究（管理会計）	7	6
事例研究（財務会計）	5	3
プロジェクト調査（財務会計）b	6	4
事例研究（国際会計基準）	6	5
金融論	6	4
消費税法	6	6
ビジネス倫理	23	19
合計	341	282

「履修者数」は履修登録を行った学生数であり、「回収数」は履修登録を行わず聴講している学生も含んでいる。

表1：アンケート実施科目と回収数

今回のアンケートでは、述べ履修者数395名に対して282名から回答を得た。アンケートの回答率は71.39%であり、前回（2013年度前期、82.03%）よりも10ポイント程度減少している。この背景には、変則的日程で実施されるプロジェクト科目などがアンケート対象科目となったことがあると考えられるが、結果の信頼性には影響しない水準であるといえる。なお、質問項目17は科目担当教員が独自に設定できる質問であり、アンケートの集計には含めていない。

4.2. アンケートに関する基本統計量

各設問の選択肢に付与された数字は、好ましい回答ほどその値が大きくなるよう設定されているため（設問1を除く）、この数値化によって回答の平均値、中央値、最頻値の算出を行った。あわせて、参考のため標準偏差も計算した。その結果は以下の通りである。なお、アンケートの内容については資料2を参照されたい。

項目\設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア	資格
5	96	199	20	17	65	118	191	224	221	219	214	189	216	153	182	23
4	143	35	15	13	15	108	65	47	44	47	43	62	55	67	72	38
3	25	27	26	30	38	41	20	7	14	14	20	27	8	40	19	34
2	10	9	41	50	57	9	2	1	0	0	3	2	1	9	4	133
1	6	7	96	109	54	3	2	0	0	0	0	0	0	11	2	14
0	0	0	81	62	49	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29
合計	280	277	279	281	278	279	280	279	279	280	280	280	280	280	279	271
平均値	4.12	4.42	1.49	1.55	2.41	4.17	4.58	4.78	4.75	4.74	4.68	4.57	4.74	4.23	4.54	2.39
中央値	4	5	1	1	2	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	2
最頻値	4	5	1	1	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	2
標準偏差	0.87	1.10	1.49	1.38	1.80	0.91	0.72	0.50	0.55	0.55	0.66	0.70	0.53	1.06	0.75	1.33
参考																
2012年度後期平均値	3.99	4.37	1.24	1.24	1.87	3.91	4.26	4.55	4.42	4.33	4.33	4.18	4.33	3.68	4.17	2.22

表2：アンケートの基本統計量

これまでのアンケート結果と同様、設問3（予習）から設問5（宿題）と設問16（資格）以外は、平均値が概ね4以上であり、中央値や最頻値も4か5である。この傾向は過去数年と大きな違いはなく、会計大学院の講義に対する評価はこれまでと変わらず良好であると言ってよいだろう。

過年度と同様であるが、設問3～5からは会計大学院の授業に関連する勉強時間が少ない傾向にあることが分かる。予習の平均時間の平均値（設問3）が2012年度後期の1.24から1.49へ伸びてはいるが、絶対的な長さはこれまでと同じく短めと判断してよいだろう。予習・復習については、どの学生もできるだけ短めに抑えようとした結果だと思われるが、宿題に要した時間を見ると、標準偏差は大きく、学生によってかなりばらついていると考えてよいだろう。授業によって課される宿題の量は異なるだろうが、宿題をどの程度手間と時間をかけてやっているかも学生によって異なると考えられる。前年度同様、GPAはかなりばらついており（本報告書には未掲載）、本会計大学院の単位の修得は決して容易というわけではない。宿題にかかる時間の分布からは、会計大学院の授業で課される宿題の量と質が、学生にとって適度に厳しいと考えてよいだろう。

最後に、全般的傾向として、2012年度後期よりもスコアが改善している点に注目したい。このことは、本年度の学生の満足度が全体的に増していることを示唆している可能性もあるが、やや「甘め」の回答をしていることを示唆している可能性もある。したがって、以下の分析については、慎重な解釈が必要となろう。

4.3. 各設問間の相関

質問項目間の相関関係をみるために、表3を作成した。なお、0.50以上の相関係数については太字にしている。設問16の資格は複数回答が可能となっているが、相関係数の計算上、複数回答者については複数の数値を合計した値を用いている。例えば、2と3の資格を持つ回答者は資格の値を5として相関係数を計算している。なお、表2の計算の際には、資格についてこのような合計はしていない。

設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア	資格
1 属性	1															
2 出席	-0.055	1														
3 予習	0.010	0.114	1													
4 復習	-0.057	0.111	0.698	1												
5 宿題	-0.001	0.259	0.442	0.469	1											
6 理解	-0.022	0.163	0.181	0.182	0.196	1										
7 難易度	0.073	0.099	0.155	0.175	0.112	0.428	1									
8 教員準備	-0.047	0.097	0.114	0.071	0.085	0.390	0.534	1								
9 プレゼン	-0.110	0.089	0.108	0.032	0.032	0.337	0.455	0.709	1							
10 教材	-0.032	0.052	0.065	0.051	0.002	0.382	0.503	0.669	0.708	1						
11 評価方法	-0.033	0.083	0.089	0.060	0.008	0.324	0.561	0.536	0.607	0.602	1					
12 シラバス	-0.034	-0.035	0.144	0.084	0.042	0.233	0.446	0.473	0.547	0.513	0.541	1				
13 教員評価	-0.145	0.064	0.141	0.104	0.049	0.411	0.490	0.659	0.708	0.588	0.538	0.576	1			
14 対試験	0.075	0.120	0.091	0.254	0.027	0.268	0.463	0.285	0.353	0.310	0.340	0.348	0.347	1		
15 キャリア	-0.007	0.151	0.184	0.131	0.149	0.395	0.386	0.492	0.438	0.381	0.330	0.261	0.518	0.322	1	
16 資格	0.188	-0.069	0.100	0.145	0.099	0.065	-0.046	-0.100	-0.173	-0.153	-0.123	-0.097	-0.086	0.037	-0.019	1

表3：質問項目数の相関関係

過年度と同様に、設問3（予習）と設問4（復習）の間で比較的高い正の相関が見られる。これらの設問は学生の会計大学院の授業に関連する勉強時間についてのもので、予習等をよく行う学生は復習等もよく行うことを示している。

また、こちらもこれまでと同様に、設問6（理解）～設問15（キャリア）の間で全般的に高い正の相関が見られる。これらの設問は会計大学院の講義に対する評価に関するものであり、我々は毎年特に注目している。特に、設問8（教員準備）、設問9（プレゼン）、設問10（教材）の列は相関がかなり高い（0.709）。このことは、講義の評価は教員の準備と現場でのプレゼン技術にかなり影響されることを示している。設問8（教員準備）と設問13（教員評価）の間の相関は0.659、設問9（プレゼン）と設問13（教員評価）の間の相関は0.708と高いことから、このことは見て取れる。

この点もまた過去と同様だが、設問3～設問5の設問群と設問6から設問15の設問群の間では、正であれ負であれ相関がゼロに近かった。この点については、様々な要因が絡んでいるためはっきりとしたことは言えないが、会計大学院の授業関連の勉強時間と、授業に対する評価の間にはあまり強い関係が見られないということである。

ここで、教員の観点から見てもっとも重要な13 教員評価と高い相関が観察された項目は、準備、プレゼン、教材、評価方法、シラバスなど、教育方法自体に関連する項目である（全て0.5以上）。難易度も0.490と比較的高い水準にある、それ以上に教育方法によって教員を評価しているといえる。教員にとって講義のレベルの設定は難しい問題であるが、適切な教育方法の下で実践されれば、学生もフォローしてくれるものと解釈できる。

以上、設問間の相関からは過去と同様の結果が得られた。上記の表については過去の報告書でも報告されている。過去の報告書については、会計大学院のホームページを参照されたい（<http://www.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/keiji2014a.html>）。

4.4. 設問ごとの集計結果と所見

以下では、それぞれの設問についての集計結果と過去4年間の推移を示し、各々所見を示す。なお、アンケート全項目の集計結果については巻末資料4を参照されたい。

設問1：該当するものを選んでください（受講者属性）

選択項目	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期
公認会計士コース（2年）	44.44%	39.47%	35.57%	22.69%	38.73%	24.47%	49.34%	34.29%
公認会計士コース（1年）	41.30%	47.04%	54.62%	70.45%	53.29%	61.70%	41.69%	51.07%
会計リサーチコース	0.97%	4.28%	4.20%	4.78%	3.76%	5.67%	7.39%	8.93%
経済経営学専攻	4.35%	3.62%	1.12%	1.19%	1.41%	4.61%	1.06%	3.57%
経済学部	8.70%	4.61%	2.80%	0.60%	2.58%	3.19%	0.53%	2.14%
その他	0.24%	0.99%	1.68%	0.30%	0.23%	0.35%	0.00%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%
総数	414	304	357	335	426	282	379	280

特に大きな傾向の変化はなかった。

設問2：この講義にどのくらい出席しましたか。

選択項目	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期
90%以上	85.92%	80.13%	85.07%	73.49%	78.17%	61.92%	69.35%	71.84%
89-70%	10.44%	13.58%	10.14%	14.76%	12.91%	23.13%	18.55%	12.64%
69-50%	1.21%	1.66%	1.41%	8.13%	4.46%	9.25%	4.84%	9.75%
49-20%	0.97%	2.98%	2.25%	2.71%	3.05%	1.78%	4.03%	3.25%
20%未満	1.46%	1.66%	1.41%	0.90%	1.41%	3.91%	3.23%	2.53%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	412	302	355	332	426	281	372	279

ここ数年、出席率が低下傾向にあるが、その傾向が続いている。本大学院において就職活動をする学生が増加傾向にあること、そして、就職活動が大学院1年生の12月から開始されることが影響していると考えられる。今後、就職活動の時期が変更になることもあることから、その影響を見極める必要がある。

設問3：この講義の予習にどのくらいの時間を掛けましたか。

選択項目	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期
5時間以上	6.02%	2.65%	2.51%	1.80%	4.48%	4.95%	5.84%	7.17%
4-5時間	3.86%	0.66%	2.51%	1.50%	1.42%	4.24%	4.24%	5.38%
3-4時間	5.54%	7.95%	8.66%	5.41%	5.19%	6.36%	6.63%	9.32%
2-3時間	12.53%	14.57%	9.78%	12.01%	12.03%	12.37%	14.32%	14.70%
1-2時間	41.69%	40.40%	31.84%	33.63%	36.79%	38.17%	35.54%	34.41%
1時間未満	30.36%	33.77%	44.69%	45.65%	40.09%	33.92%	33.42%	29.03%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	415	342	358	333	424	283	377	279

予習を多く課す傾向にある科目は、事例研究やプロジェクト調査などの科目として想定されるが、4時間を超える予習をした学生はこうした科目の受講者であると考えられる。少人数教育において、課題を課せば、学生は真摯に取り組むことが示唆されているといえ、科目編成において考慮すべき事項である。

1時間未満との回答が初めて30%を下回ったが、予習に時間をかけていない者も数多くいる。これは、主に講義形式の科目において見られており、必ずしも問題とはいえないが、学習効果を高めるためにも、適切な課題設定が必要であろう。

設問4：この講義の復習にどのくらいの時間を掛けましたか。

選択項目	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期
5時間以上	7.00%	3.67%	2.53%	2.10%	3.78%	3.18%	5.85%	6.05%
4-5時間	3.38%	2.33%	4.49%	1.80%	2.84%	3.53%	3.46%	4.63%
3-4時間	6.04%	8.00%	10.96%	6.89%	7.57%	4.95%	6.65%	10.68%
2-3時間	25.85%	17.33%	14.04%	13.17%	17.26%	17.67%	19.15%	17.79%
1-2時間	41.55%	49.33%	40.45%	44.61%	40.90%	44.17%	39.63%	38.79%
1時間未満	16.18%	19.33%	27.53%	31.44%	27.66%	26.50%	25.27%	22.06%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	414	300	356	334	423	283	376	281

これは、設問3とは逆に、講義形式の科目においては、高くなることが想定され、少人数の科目では低くなると想定される。

講義内容によって復習にあてるべき時間は異なるが、1～2時間、1時間未満となる学生が多い傾向が見られていることから、十分に復習がなされているとは言い難い。次の設問とも関連するが、宿題内容を工夫して、学生に対して復習を促す仕組み作りが求められているのかもしれない。

設問5：この講義の宿題にどのくらいの時間を掛けましたか。

選択項目	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期
5時間以上	12.62%	11.41%	7.32%	10.18%	8.29%	10.36%	9.07%	23.38%
4-5時間	6.80%	3.69%	8.45%	6.29%	8.06%	5.00%	7.73%	5.40%
3-4時間	8.74%	18.79%	17.46%	10.18%	14.45%	12.50%	16.27%	13.67%
2-3時間	23.79%	18.12%	17.46%	22.75%	18.72%	22.86%	22.40%	20.50%
1-2時間	33.74%	33.22%	28.73%	28.74%	29.62%	31.79%	27.73%	19.42%
1時間未満	14.32%	14.77%	20.56%	21.56%	20.85%	17.50%	16.80%	17.63%
計	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	412	298	355	333	422	280	375	278

宿題については、科目ごとによってその質、量が異なることから、適確な評価を実施することは困難であるが、やや宿題に当てる時間が少ないようにも感じられる。科目によっては、もう少し宿題の量を増やすことも検討いただく必要があるのかもしれない。

設問6：この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか。

選択項目	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期
理解できた	26.75%	26.32%	29.89%	28.14%	29.83%	29.33%	37.57%	42.29%
ほぼ理解できた	47.23%	44.41%	46.50%	46.11%	46.06%	42.05%	40.48%	38.71%
どちらともいえない	21.45%	24.67%	19.89%	21.86%	18.62%	20.85%	18.52%	14.70%
あまり理解できなかった	4.10%	3.62%	4.20%	3.29%	4.30%	5.65%	2.65%	3.23%
理解できなかった	0.48%	0.99%	1.12%	0.60%	1.19%	2.12%	0.79%	1.08%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%
総数	415	304	357	334	419	283	378	279

「理解できた」と「ほぼ理解できた」を合わせると、81%になり、学生は一定程度講義内容を理解していると考えられる。この数値は、これまででも最も高い水準にある。本会計大学院が10年目となり、教員の、学生の平均的なレベルへの理解が高まった結果である可能性もある。

講義のレベルの設定は、教員にとって難しい問題であるが、ここでの結果を見る限り、レベルを引き上げる余地があるとも考えられる。

設問7：この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか。

選択項目	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期
適切	59.18%	58.22%	56.15%	56.42%	56.24%	49.29%	65.87%	68.21%
ほぼ適切	26.57%	28.29%	29.89%	28.66%	27.76%	32.27%	23.81%	23.21%
どちらともいえない	10.63%	11.18%	10.89%	11.94%	13.18%	15.60%	8.73%	7.14%
やや不適切	2.90%	1.64%	2.51%	2.69%	2.12%	1.06%	1.32%	0.71%
不適切	0.72%	0.66%	0.56%	0.30%	0.71%	1.77%	0.26%	0.71%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	414	304	358	335	425	282	378	280

概ね高い評価となっており、問題ないと考えられる。

設問 8：教員のこの講義に対する準備は十分でしたか。

選択項目	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期
十分	71.29%	69.87%	65.08%	68.17%	66.82%	67.38%	73.47%	80.29%
ほぼ十分	19.71%	21.85%	23.46%	21.02%	18.96%	22.70%	20.42%	16.85%
どちらともいえない	6.08%	6.95%	6.70%	7.21%	10.90%	8.16%	5.57%	2.51%
やや不十分	2.13%	0.99%	3.07%	1.80%	2.13%	1.06%	0.27%	0.36%
不十分	0.73%	0.33%	1.68%	1.80%	1.18%	0.71%	0.27%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%
総数	411	302	358	333	422	282	377	279

「十分」との回答が初めて 80% を超えており、高い評価を得られたと考えられる。

設問 9：教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良かったですか。

選択項目	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期
良かった	69.34%	67.99%	62.57%	64.86%	60.90%	65.96%	76.72%	79.21%
まあまあ良かった	18.73%	21.78%	24.86%	23.72%	21.99%	20.21%	16.67%	15.77%
どちらともいえない	8.03%	8.25%	8.66%	8.41%	12.53%	7.09%	5.82%	5.02%
やや悪かった	2.68%	1.65%	3.07%	2.40%	3.07%	3.55%	0.53%	0.00%
悪かった	1.22%	0.33%	0.84%	0.60%	1.42%	3.19%	0.26%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	411	303	358	333	423	282	378	279

この設問についても、否定的回答がなく、高い水準を維持しているといえる。

設問 10：テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか。

選択項目	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期
適切	63.75%	59.74%	60.06%	56.16%	53.79%	56.74%	68.78%	78.21%
ほぼ適切	22.87%	25.41%	27.09%	27.93%	25.83%	26.95%	21.96%	16.79%
どちらともいえない	9.25%	10.23%	8.38%	12.01%	15.17%	10.28%	7.14%	5.00%
やや不適切	2.43%	3.63%	3.63%	3.30%	4.03%	4.61%	1.85%	0.00%
不適切	1.70%	0.99%	0.84%	0.60%	1.18%	1.42%	0.26%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%
総数	411	303	358	333	422	282	378	280

この設問についても、否定的回答がなく、高い水準を維持しているといえる。

設問 11：この講義の成績評価の方法は適切だと思いますか。

選択項目	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期
適切	61.31%	63.12%	59.10%	58.43%	59.72%	52.48%	66.14%	76.43%
ほぼ適切	26.52%	25.25%	25.49%	23.19%	21.33%	32.27%	25.93%	15.36%
どちらともいえない	9.00%	10.30%	11.76%	15.96%	14.45%	12.06%	7.14%	7.14%
やや不適切	1.46%	1.33%	1.96%	1.51%	3.55%	1.77%	0.53%	1.07%
不適切	1.70%	0.00%	1.68%	0.90%	0.95%	1.42%	0.26%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%
総数	411	301	357	332	422	282	378	280

適切な回答が初めて 7 割を超えており、また、高い傾向が維持されている。したがって、問題はないものと考えられる。

設問 12：この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか。

選択項目	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期
役に立った	50.36%	43.38%	49.16%	43.54%	46.45%	44.33%	57.41%	67.50%
まあまあ役に立った	26.28%	31.46%	26.12%	25.53%	27.49%	36.17%	31.48%	22.14%
どちらともいえない	17.76%	21.85%	19.38%	22.52%	19.19%	14.18%	8.99%	9.64%
あまり役に立たなかった	3.41%	1.99%	3.65%	6.01%	5.45%	4.26%	1.32%	0.71%
役に立たなかった	2.19%	1.32%	1.69%	2.40%	1.42%	1.06%	0.79%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%
総数	411	302	356	333	422	282	378	280

適切な回答が初めて 7 割近くとなっており、また、高い傾向が維持されている。したがって、問題はないものと考えられる。

設問 13：総合的に見て、この講義における教員のパフォーマンスをどう評価しますか。

選択項目	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期
評価できる	64.63%	66.89%	61.52%	59.46%	58.39%	56.74%	72.22%	77.14%
まあまあ評価できる	25.37%	24.50%	28.37%	27.03%	25.06%	25.18%	22.22%	19.64%
どちらともいえない	7.56%	6.62%	6.18%	8.41%	13.48%	13.12%	4.76%	2.86%
あまり評価できない	1.71%	1.66%	3.37%	2.70%	1.65%	3.90%	0.79%	0.36%
評価できない	0.73%	0.33%	0.56%	2.40%	1.42%	1.06%	0.00%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%
総数	410	302	356	333	423	282	378	280

適切な回答が初めて8割近くとなっており、また、これまで以上に高い水準にある。したがって、問題はないものと考えられる。

設問 14：この講義は公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか。

選択項目	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期
役立つ	46.32%	40.00%	44.82%	44.88%	39.29%	32.98%	52.25%	54.64%
まあまあ役に立つ	28.68%	29.00%	24.93%	26.81%	22.38%	27.30%	25.20%	23.93%
どちらともいえない	17.16%	20.33%	20.73%	17.77%	27.86%	24.11%	15.38%	14.29%
あまり役に立たない	5.39%	6.67%	4.20%	5.72%	6.67%	6.03%	3.45%	3.21%
役に立たない	2.45%	4.00%	5.32%	4.82%	3.81%	9.57%	3.71%	3.93%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%
総数	408	300	357	332	420	282	377	280

例年と回答の傾向に変化はない。

設問 15：この講義は将来のキャリアにおいて役立つと思いますか。

選択項目	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期
役立つ	50.12%	56.57%	50.00%	55.45%	53.32%	48.39%	58.02%	65.23%
まあまあ役に立つ	28.99%	25.59%	29.94%	28.48%	29.62%	30.11%	25.94%	25.81%
どちらともいえない	16.22%	14.48%	15.82%	13.33%	12.56%	15.41%	12.83%	6.81%
あまり役に立たない	3.93%	2.36%	2.54%	1.82%	3.32%	3.58%	2.14%	1.43%
役に立たない	0.74%	1.01%	1.69%	0.91%	1.18%	2.51%	1.07%	0.72%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	407	297	354	330	422	279	374	279

注) この設問は2010年度までは「この講義は公認会計士になってからのキャリアに役立つと思いますか」であった。

「役立つ」との回答が6割を超えており、「まあまあ役に立つ」との回答と合わせると9割に達する。このこと自体は、前向きに捉えられるものであるが、一方で、学生が短期的に役立つような科目を選択している可能性も否定できない。

4.5. 自己評価と今後の課題

ここでは、本節で扱っている「授業アンケート」の結果について自己評価を行い、今後の課題を検討する。

4.5.1. 学生の学習（設問2から5）について

学生の学習時間、理解については、ここ数年で大幅に改善しており、この間実施されたカリキュラム改訂、教員の創意工夫の効果があつたものと解される。ただし、一部に学習意欲に欠ける者もいるようであり、また、就職活動による影響も見られた。

この問題は、個々の講義、教員レベルで対応すべき点と、カリキュラム編成全体で改善すべき点である。前者については、講義の意図、テキストの選択理由、課題等の意義について、丁寧に説明していくことが重要となろう。他方、カリキュラムについては、より少人数教育が実施できるような科目編成、体系的な科目の編成を実施することが重要であると思料される。

4.5.2. 教員への評価（設問6から13）について

ここでの評価は、高い水準にあり、特に問題はない。教員のいっそうの創意工夫、新任教員への指導体制の確保（ノウハウの伝達）が必要となる。

4.5.3. 講義の内容（設問14, 15）について

本年度においては、大幅な改善が見られているが、まだまだ改善の余地がある。ただし、学生が感じる「良い講義」・「役に立つ講義」と、実際に「役に立つ講義」・「会計大学院として教えるべき講義」の間には差があるのは当然であり、学生の評価のみによって講義内容を検討することは不適切である。しかしながら、学生の意欲をもって取り組むには、学生自身が納得していることは重要であり、講義内容、講義の意図などについて丁寧に説明していくことが重要であろう。

本会計大学院では、充実したシラバスの配布によって、これに対応してきた。また、こうした説明が多く授業において第1回講義で実施されることに鑑み、学生に対しては受講可能性がある場合には第1回講義に出席することを促す措置をとっている。

4.6. 自由記入欄の意見について

「会計大学院の授業に関するアンケート」に設けられた自由記入欄については、科目担当教員による対応が必要であるので、寄せられた意見はこれまで通り担当教員へ報告し、改善すべき点は改善を行うよう依頼している。

全般として授業について大きな問題はなかったことから、個々にコメントはしないが、(1) 学生の発表機会を設定することに対して高評価であること、(2) 宿題などの課題についても、その設定が妥当であるならば、学生は前向きに評価していること、(3) 教員とのコミュニケーションをとった結果、学生の意向が反映ないし学生にとって納得できる状況になった場合には、ポジティブな印象が得られているようである。本大学院は、少人数教育を重視しており、様々な点で、学生との距離を短くする工夫をしている（研究室の配置、面談の実施など）。そうした点について、一定の評価が得られているものと解される。

5. 結び

以上、2013年度に関する授業・カリキュラムに関するアンケートに関する評価・分析について述べてきた。

最初に述べたように、会計専門職、会計大学院をめぐる状況は厳しさを増している。しかしながら、本アンケートの分析からは、本会計大学院においては、学生はそうした厳しさを乗り越えるために、真摯に取り組んでいることが窺えた。

本報告書ではふれていないが、幸いにして、本大学院の学生、試験合格者の就職状況は良好な状態が続いており、これは、本学の教員、学生の努力の成果の一つであるといえる。今後とも、東北大学会計大学院およびその卒業生の社会的な評価が高まるよう、様々な取り組みをしていきたい。

最後になるが、アンケートに真摯に取り組んでくれた学生各位に感謝するとともに、在学生にはさらなる充実した大学院生活を送り、希望の進路を進めることを、そして卒業生には様々なフィールドで活躍できることを希望している。

資料1：2013年度後期「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」設問用紙

会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート（2013年度後期）

このアンケートは、学生諸君の意見を会計大学院のカリキュラム改善に役立てることを目的として行うものであり、集計結果等は報告書として公表致します。

回答者属性

番号	質問	回答
1	あなたの専攻・コース（学年）について、該当するものを選んで下さい。	(5) 公認会計士コース（2年） (2) 経済経営学専攻 (4) 公認会計士コース（1年） (1) 経済学部 (3) 会計リサーチコース (0) その他

カリキュラムについて

番号	質問	回答
2	基礎、展開、実践・応用科目（注）の配置は適切だと思いますか？	(5) 適切である (2) やや不適切である (4) ほぼ適切である (1) 不適切である (3) どちらともいえない
3	Semester間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか？	(5) 適切である (2) やや不適切である (4) ほぼ適切である (1) 不適切である (3) どちらともいえない
4	オフィスアワーを利用して教員に履修相談・質問等を行った回数についてお答えください。	(5) 5回以上 (2) 1回 (4) 4回または3回 (1) 利用しなかった (3) 2回
5	Semester開始時に行われる個人面談は、学習計画を立てる上で役に立ちましたか？	(5) 役に立った (2) あまり役に立たなかった (4) まあまあ役に立った (1) 役に立たなかった (3) どちらともいえない
6	成績評価に用いているGPAは、学生個々の能力を適切に評価できると思いますか？	(5) 適切である (2) やや不適切である (4) ほぼ適切である (1) 不適切である (3) どちらともいえない
7	講義の予習・復習・宿題以外に、公認会計士試験のための自主学習には1日平均何時間くらい時間を掛けていますか？	(5) 5時間以上 (2) 1-3時間 (4) 4-5時間 (1) 1時間未満 (3) 3-4時間
8	本大学院では、学生への連絡・掲示媒体としてe-mail、HPを用いていますが、このシステムは役に立ちましたか？	(5) 役に立った (2) あまり役に立たなかった (4) まあまあ役に立った (1) 役に立たなかった (3) どちらともいえない
9	在学中に公認会計士試験を受験しようと考えていますか？	(5) 考えている (4) まだ決めていない (3) 考えていない
10	会計大学院OB会を組織したいと考えています。OB会創設に関してご意見をお聞かせ下さい。	(5) 賛成 (4) 反対 (3) 分からない 《特にご意見のある方は、自由記入欄へご記入下さい。》
11	今後、新たに開設すべき科目がありますか？	自由記入欄に3つ以内で回答して下さい。

(注) 科目分類については裏面を参照して下さい。

基礎科目：各科目領域（会計・経済と経営・ITと統計・法と倫理）を学ぶ上で基礎となる内容を学習する。

展開科目：基礎科目の理解を前提とし、より高度な内容を学習する。

実践・応用科目：基礎、展開科目で学んだ内容が、実際にどのように応用されていくのかを学習する。

アンケートは以上です。御協力感謝致します。

資料 2：2013 年度後期「会計大学院の授業に関するアンケート」設問用紙

会計大学院の授業に関するアンケート（2013 年度後期）

このアンケートは会計大学院の授業改善に学生諸君の意見を反映するためのものであり、集計結果等は報告書として公表致します。

授業科目名はマークシート用紙に記入されていますので御確認下さい。

回答者属性

番号	質問	回答
1	あなたの専攻・コース（学年）について、該当するものを選んで下さい。	(5) 公認会計士コース（2年） (2) 経済経営学専攻 (4) 公認会計士コース（1年） (1) 経済学部 (3) 会計リサーチコース (0) その他

科目内容について

番号	質問	回答	備考
2	この講義にどのくらい出席しましたか？	(5) 90% 以上 (4) 89-70% (3) 69-50% (2) 49-20% (1) 20% 未満	おおよその出席率で回答して下さい。
3	この講義の予習にどのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5 時間以上 (4) 4-5 時間 (3) 3-4 時間 (2) 2-3 時間 (1) 1-2 時間 (0) 1 時間未満	セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。
4	この講義の復習にどのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5 時間以上 (4) 4-5 時間 (3) 3-4 時間 (2) 2-3 時間 (1) 1-2 時間 (0) 1 時間未満	宿題に掛けた時間を含めずに回答して下さい。
5	この講義の宿題にどのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5 時間以上 (4) 4-5 時間 (3) 3-4 時間 (2) 2-3 時間 (1) 1-2 時間 (0) 1 時間未満	セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。
6	この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか？	(5) 理解できた (4) ほぼ理解できた (3) どちらともいえない (2) あまり理解できなかった (1) 理解できなかった	
7	この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	この講義が基礎、展開、実践・応用科目（注）の何れに属しているか（マークシートに記載）を考慮して回答して下さい。

（注）実践・応用科目は基礎、展開科目で学んだ内容が、実際にどのように応用されていくのかを学習する。

番号	質問	回答	備考
8	教員のこの講義に対する準備は十分でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった	
9	教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった	板書・プロジェクター等の利用も考慮して回答して下さい。
10	テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	
11	この講義の成績評価の方法は適切であると思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	シラバスに記載されている成績評価を考慮して回答して下さい。
12	この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか？	(5) 役に立った (4) まあまあ役に立った (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たなかった (1) 役に立たなかった	講義を選択する際に役立ったかという点も考慮して回答して下さい。
13	総合的に見て、この講義における教員のパフォーマンスをどう評価しますか？	(5) 評価できる (4) まあまあ評価できる (3) どちらともいえない (2) あまり評価できない (1) 評価できない	
14	この講義は、公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない	
15	この講義は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない	
16	あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。	(5) 税理士会計科目 (4) 公認会計士短答式 (3) 日商簿記1級 (2) 日商簿記2級 (1) その他 (0) 何も無い	複数回答可能です。複数回答をするときはマークシートの16～20の欄に1つずつマークして下さい。(1)については自由記入欄に具体的に記入して下さい。
21	《講義担当教員による質問》	(5), (4), (3), (2), (1)	担当教員による質問があれば回答して下さい。
22	《自由記入欄》	授業の感想、担当教員への要望、また本アンケートの各質問に関連した更なる意見等を、マークシート添付の用紙に自由に記入して下さい。	

アンケートは以上です。御協力感謝致します。

資料3：2013年度後期「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」集計結果

	選択項目	人数	割合
設問1 回答者属性	公認会計士コース (2年)	2	9.52%
	公認会計士コース (1年)	19	90.48%
	会計リサーチコース	0	0.00%
	経済経営学専攻	0	0.00%
	経済学部	0	0.00%
	その他	0	0.00%
	合計	21	100%
設問2 基礎, 展開, 実践・応用科目の配置は適切だと思いますか.	適切である	13	62%
	ほぼ適切である	6	29%
	どちらともいえない	0	0%
	やや不適切である	2	10%
	不適切である	0	0%
	合計	21	100%
設問3 Semester間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか.	適切である	11	55%
	ほぼ適切である	6	30%
	どちらともいえない	2	10%
	やや不適切である	1	5%
	不適切である	0	0%
	合計	20	100%
設問4 オフィスアワーを利用して教員に履修相談・質問等を行った回数.	5回以上	3	13%
	4回または3回	3	13%
	2回	1	4%
	1回	3	13%
	利用しなかった	13	57%
	合計	23	100%
	設問5 Semester開始時の個人面談は, 学習計画を立てる上で役に立ちましたか.	役に立った	12
まあまあ役に立った	5	25%	
どちらともいえない	2	10%	
あまり役に立たなかった	0	0%	
役に立たなかった	1	5%	
合計	20	100%	
設問6 GPAによって学生の能力を適切に評価できると思えますか.	適切である	4	18%
	ほぼ適切である	10	45%
	どちらともいえない	6	27%
	やや不適切である	2	9%
	不適切である	0	0%
	合計	22	100%
設問7 受験のための自主学習には1日平均何時間くらいかけていますか.	5時間以上	5	25%
	4-5時間	3	15%
	3-4時間	3	15%
	1-3時間	3	15%
	1時間未満	6	30%
	合計	20	100%
設問8 e-mail, HPを用いた連絡システムは役に立ちましたか.	役に立った	11	55%
	まあまあ役に立った	7	35%
	どちらともいえない	1	5%
	あまり役に立たなかった	1	5%
	役に立たなかった	0	0%
	合計	20	100%
設問9 在学中の受験を考えていますか.	考えている	11	55%
	まだ決めていない	4	20%
	考えていない	5	25%
	合計	20	100%
設問10 OB会について	賛成	13	65%
	反対	2	10%
	分からない	5	25%
	合計	20	100%

注) 設問の文言は本来のものと若干異なります.

資料4：2013年度後期「会計大学院の授業に関するアンケート」集計結果

	選択項目	人数	割合		選択項目	人数	割合
設問1 あなたの専攻・コース(学年)について、該当するものを選んで下さい。	公認会計士コース(2年)	96	34.29%	設問9 教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか。	十分	221	79.21%
	公認会計士コース(1年)	143	51.07%		ほぼ十分	44	15.77%
	会計リサーチコース	25	8.93%		どちらともいえない	14	5.02%
	経済経営学専攻	10	3.57%		やや不十分	0	0.00%
	経済学部	6	2.14%		不十分	0	0.00%
	その他	0	0.00%		合計	279	100.00%
設問2 この講義にどのくらい出席しましたか。	合計	280	100.00%	設問10 テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか。	適切	219	78.21%
	90%以上	199	71.84%		ほぼ適切	47	16.79%
	89-70%	35	12.64%		どちらともいえない	14	5.00%
	69-50%	27	9.75%		やや不適切	0	0.00%
	49-20%	9	3.25%		不適切	0	0.00%
設問3 この講義の予習にどのくらいの時間を掛けましたか。	20%未満	7	2.53%	合計	280	100.00%	
	合計	277	100.00%	設問11 この講義の成績評価の方法は適切であると思いますか。	適切	214	76.43%
	5時間以上	20	7.17%		ほぼ適切	43	15.36%
	4-5時間	15	5.38%		どちらともいえない	20	7.14%
	3-4時間	26	9.32%		やや不適切	3	1.07%
	2-3時間	41	14.70%		不適切	0	0.00%
1-2時間	96	34.41%	合計		280	100.00%	
設問4 この講義の復習にどのくらいの時間を掛けましたか。	1時間未満	81	29.03%	設問12 この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか。	役に立った	189	67.50%
	合計	279	100.00%		まあまあ役に立った	62	22.14%
	5時間以上	17	6.05%		どちらともいえない	27	9.64%
	4-5時間	13	4.63%		あまり役に立たなかった	2	0.71%
	3-4時間	30	10.68%		役に立たなかった	0	0.00%
	2-3時間	50	17.79%		合計	280	100.00%
設問5 この講義の宿題にどのくらいの時間を掛けましたか。	1-2時間	109	38.79%	設問13 総合的に見て、この講義における教員のパフォーマンスをどう評価しますか。	評価できる	216	77.14%
	1時間未満	62	22.06%		まあまあ評価できる	55	19.64%
	合計	281	100.00%		どちらともいえない	8	2.86%
	5時間以上	65	23.38%		あまり評価できない	1	0.36%
	4-5時間	15	5.40%		評価できない	0	0.00%
	3-4時間	38	13.67%		合計	280	100.00%
設問6 この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか。	2-3時間	57	20.50%	設問14 この講義は公認会計士試験を受験する上で役に立つと思いますか。	役立つ	153	54.64%
	1-2時間	54	19.42%		まあまあ役に立つ	67	23.93%
	1時間未満	49	17.63%		どちらともいえない	40	14.29%
	合計	278	100.00%		あまり役に立たない	9	3.21%
	理解できた	118	42.29%		役に立たない	11	3.93%
	ほぼ理解できた	108	38.71%		合計	280	100.00%
設問7 この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか。	どちらともいえない	41	14.70%	設問15 この講義は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか。	役立つ	182	65.23%
	どちらともいえない	20	7.14%		まあまあ役に立つ	72	25.81%
	やや不適切	2	0.71%		どちらともいえない	19	6.81%
	不適切	2	0.71%		あまり役に立たない	4	1.43%
	合計	280	100.00%		役に立たない	2	0.72%
	合計	279	100.00%		合計	279	100.00%
設問8 教員のこの講義に対する準備は十分でしたか。	十分	224	80.29%	設問16 あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。	税理士会計科目	23	8.49%
	ほぼ十分	47	16.85%		公認会計士短答式	38	14.02%
	どちらともいえない	7	2.51%		日商簿記1級	34	12.55%
	やや不十分	1	0.36%		日商簿記2級	133	49.08%
	不十分	0	0.00%		その他	14	5.17%
	合計	279	100.00%		何も無い	29	10.70%
				合計	271	100.00%	

注) 設問の文言は本来のものと若干異なります。

2013 年度 東北大学会計大学院ワークショップ委員会

委員長	木村 史彦
委員	青木 雅明
委員	高橋美穂子
委員	千木良弘朗

会計大学院アンケート実施報告書 2013 年度後期

2014 年 4 月 10 日発行

編集・発行：東北大学会計大学院ワークショップ委員会